

# 第5学年 国語科学習指導略案

2組 計39人(男子17人, 女子22人)  
指導者 永田洋一

1 単元 理由づけを明確にして説明しよう  
(教材「グラフや表を用いて書こう」光村5年)

2 単元の目標 目的や意図に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理するとともに、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるように書くことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	B 書く能力	言語についての知識・理解・技能
目的や意図に応じて収集した事柄を、全体を見通して整理し、グラフや表を用いて、自分の考えが伝わるような文章を書こうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。【(1)ア】</li> <li>事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。【(1)ウ】</li> <li>グラフや表を用いて自分の考えが伝わるように書いている。【(1)エ】</li> <li>表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができる。【(1)オ】</li> </ul>	文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。【(1)イ(キ)】

4 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、第5学年「活動報告書」の学習において、事実と意見を区別しながら、集団宿泊学習における活動報告書を書く学習に取り組んできた。また、同学年「明日をつくるわたしたち」の学習では、身の回りにある問題について調べ、自分の考えを明らかにして話し合い、解決のための提案を行う文章を書く学習に取り組んできた。

そこで本単元では、「B書くこと イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章を書く言語活動」として「わたしたちの暮らしブック」を書く活動を位置付ける。「鹿児島県は暮らしやすいか」というテーマについて、考えたことの原因や根拠を明確にして意見文を書く。その際、自分の考えを裏付けるグラフや表を用いて書き、表現の効果を確かめたり工夫したりすることができるようにする。

この学習は、意見を聞き合って考えを深め、意見文を書く単元『未来がよりよくあるために』光村6年」の学習につながっていく。また、環境問題に関する自分の考えを効果的に伝えるために、グラフや表を用い、プレゼンテーションソフトを使って発表する「環境について考えよう」(総合的な学習の時間)の学習につながっていく。

5 本時(6/7)

前時までに子供たちは、「鹿児島県は暮らしやすいか」というテーマについて、自分の考えを裏付けるためのグラフや表を用いて、意見文の下書きを行ってきた。

(1) 目標

意見文の下書きを推敲し、より説得力のある文章になるように書き直すことができる。

(2) 指導に当たって

ア 対話を重視した「学び合い」【研究内容1】

(ア) 学年や学習内容に応じた対話を重視した「学び合い」の設定

「調べる・深める」過程において、推敲の観点について全体での「学び合い」で確認した後、3人グループで加除修正した方がよいと思う友達の文章や、言葉に対する助言を付箋紙に記入・貼付したり、意見を交流したりする「学び合い」を行うことで、より説得力のある文章に書き直すことができるようにする。

(イ) 子供同士で考えを広げたり深めたりするための手立て

「調べる・深める」過程において、「なぜ、そのグラフを使おうと思ったの。」と根拠を明らかにする問い掛けを行ったり、「グラフの効果は、十分かな。」と問い返しを行ったりすることで、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

イ 学びの自覚を促し、次につなぐ学習指導の工夫【研究内容2】

(ア) 学びの自覚を促す手立て

「まとめる・広げる」過程において、「学び合い」を通して加除修正がなされた文章を意図的に取り上げ、推敲の観点に基づいて推敲できたことを価値付けることで、本時の学習内容を自覚することができるようにする。さらに、「高める・味わう」過程において、五観点で学びを振り返ることで、自己の学びを自覚することができるようにする。

(イ) 次につなぐ手立て

「高める・味わう」過程において、学習計画表を基に、本単元における言語活動の進捗状況を確認することで課題を明確にし、次時の学習につなぐことができるようにする。

過程(分)	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導
つかむ・見通す (5)	<p>1 これまでの取組を想起し、本時の学習内容について話し合う。</p> <p>意見文の下書きを書いてみて、今日はどのようなことをしたいですか。</p> <p>説得力のある意見文になっているかどうか、友達と推敲したいです。</p> <p>2 本時の学習課題を立てる。</p> <p>意見文を推敲して、より説得力のある文章にしよう。</p> <p>3 解決の見通しを全体で確認する。</p> <p>4 全体で推敲の観点について確認する。</p> <p>5 グループで助言し合う。</p> <p>【グループでの「学び合い」】</p> <p>よりよい意見文を書くために、互いの下書きを読み合い、どのような書き表し方がよいか推敲の観点を基に確かめ合おう。</p>	<p>○ これまでの学習を振り返りながら、推敲の観点「事実と感想・意見などを区別して意見文を書いているか」、「グラフや表の意味について書いているか」、「注目してほしい言葉や数字を示しているか」、「グラフや表が、自分の考えを裏付けるものになっているか」などを意識しながら互いの下書きを読み合うことを確認することで、より説得力のある意見文を書くために、どのように記述を見直していけばよいか考えるという見通しをもって、学習を進めることができるようにする。</p> <p>☆ 電子黒板を使って、本時の課題解決に向け、どのように学習を進めるのか全体で確認することで、子供一人一人が見通しをもって本時の学習に臨むことができるようにする。</p> <p>○ 本時における一人一人の加除修正が考えられる点をまとめた補助簿（個別の判断基準）を活用し、グループでの「学び合い」において、必要に応じて深化指導・補充指導を行うことで、適切に加除修正を行うことができるようにする。</p>
調べる・深める (25)	<p>○○さんの意見文は、どの文が事実で、どの文が考えなのか、少し分かりづらいんじゃないかな。</p> <p>どのように書きかえた方がよいか。</p> <p>考えの文には、「—と—」という文末にしてみたらどうかな。</p> <p>△△さんの文章は、グラフの意味や見方、注目してほしい言葉や数字もしっかり示されているけど、考えを裏付けるものになっているかな。</p> <p>考えたことと、グラフとのつながりを、もっとはっきりさせた方がよいか。</p>	<p>○ 友達の文章や言葉に対する助言や意見を付箋紙に記入・貼付した後、3人のグループで意見を交流する「学び合い」を行うことで、考えを広げたり深めたりし、文章により説得力をもたせられるようにする。</p> <p>◆ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすることができている。</p> <p>【書く能力：「学び合い」】</p>
まとめる・広げる (10)	<p>6 グループでの「学び合い」の結果、自分の意見文の下書きがどのように変わったかを全体で話し合う。</p> <p>【全体での「学び合い」】</p> <p>わたしの意見文のグラフや表では、自分の考えが裏付けられていないので、意見に合ったグラフや表に替える必要があることが分かりました。</p>	<p>○ 「なぜそのグラフや表を使おうと思ったの。」と根拠を明らかにする問い掛けを行ったり、「グラフや表の効果は十分かな。」と問い返しを行ったりすることで、考えを広げたり深めたりし、文章により説得力をもたせることができるようにする。</p> <p>○ 補助簿（個別の判断基準）を基に、加除修正がなされた文章を意図的に取り上げ、その文章を電子黒板に投影することで、自己の学びを自覚することができるように価値付けを行う。</p>
高める・味わう (5)	<p>7 友達の助言を基に、個人で推敲する。</p> <p>8 本時の学習について分かったことを自分の言葉でまとめ、学んだ結果を振り返り、成果と課題を自覚する。</p> <p>より説得力のある意見文にするためには、事実と感想・意見を区別して書いたり、考えを裏付ける表やグラフを用いたりすることが大切である。（児童の表現例）</p> <p>9 次時の学習で行いたい活動を見通す。</p> <p>今日の推敲を基に、より説得力のある文章になるように書き直して交流したい。</p>	<p>◆ グラフや表などを用いて自分の考えが伝わるように書いている。</p> <p>【書く能力：意見文】</p> <p>○ 五観点で学びを振り返ることで、本時における学びを自覚することができるようにする。</p> <p>○ 学習計画表を基に、本単元の言語活動の進捗状況を確認することで、次時の学習につなぐことができるようにする。</p>



第5学年「グラフや表を用いて書こう」本時（6／7）における「学び合い」想定シート

「学び合い」の目的

推敲の観点に基づいて、意見文を相互に読み返したり、加除修正したりするという学習課題の解決に向けて考えを広げたり深めたりするため。

「学び合い」の方法

形態	全体→3人グループ→全体	思考を可視化する手立て	付箋紙・板書
----	--------------	-------------	--------

「学び合い」で期待される子供の姿

強固	推敲の観点に基づいて、グラフから着目してほしい言葉や数字を示したり、それらのことから考えられることを自分の意見とつなげて書いたりしたことが、グループの友達から認められ、説得力をもった意見文として共有できた。
付加	推敲の観点に基づいて、グラフから着目してほしい言葉や数字を示したり、それらのことから考えられることを自分の意見とつなげて書いたりしたことに、グループの友達の考えが付け加えられ、説得力をもった意見文として共有できた。
修正	推敲の観点に基づいて、グラフから着目してほしい言葉や数字を示したり、それらのことから考えられることを自分の意見とつなげて書いたりしたが、グループの友達の考えのよさに気付き、意見文の内容を書き直した。

「学び合い」の手順

全体	全体で推敲の観点について確認する。
3人グループ	○ 推敲の観点に基づいて、加除修正した方がよいと思う友達の文章や言葉に対する助言や質問を付箋紙に記入する。 ○ 付箋紙に書いた内容について意見を交流する。
全体	友達からの助言を受け、自分で推敲した結果、どのような考えに基づいて「わたしたちの暮らし」に関する意見文を加除修正したか紹介し合う。

3人グループでの「学び合い」の想定

課題解決で働く言葉による見方・考え方

<p>○○さんの「活動して考えたこと」は、どの文が事実で、どの文が考えか少し分かりづらいんじゃないかな。</p> <p>どのように書きかえた方がよいかな。</p> <p>考えの文には、「ーと思った。」という文末にしてみたらどうかな。</p> <p>△△さんが書いている文章には、グラフから読み取った数字がたくさん書かれているけど、意見とのつながりがよく分からないな。</p> <p>ここの数字の大きな変化に注目してみたらどうかな。「この数字とこの数字を比べてみるとー。」と書いてみたら。</p> <p>△△さんの文章は、グラフの意味や見方、注目してほしい言葉や数字もしっかり示されているけど、考えの理由を裏付けるものになっているかな。</p> <p>考えたことの原因とつながりを、もっとはっきりさせた方がいいのかな。</p>	<p>文末表現に着目し、事実と意見を区別する。</p> <p>注目させたいグラフや表の数字の変化に着目し、意見とのつながりを考える。</p> <p>意見、理由、根拠に着目し、三つのつながりによる表現の効果を考える。</p>
--	---

〇〇さんの意見文は、何を表したグラフなのか、  
どのようなことが分かるのか、もう少し詳しく書く  
といいんじゃないかな。



どのように書き加えた方がいいかな。

「上のグラフはーを示しています。」とか、「これ  
を見るとーが分かります。」という文を書き加える  
といいと思うな。



グラフや表と対応  
する文章に着目し、  
必要な言葉や数字を  
書き加える。